

第3回地区庶務担当理事連絡協議会

(平成30年6月27日開催分)

△報告ならびに協議事項

1. 最近の中央情勢について

5月下旬から6月中旬にかけての社会・医療保険状況について、医療保険の給付率調整の仕組み導入に向けた検討、政府の「骨太の方針2018」における地域別診療報酬等三点の検討事項への横倉日医会長の牽制および医師の働き方改革についての話題を中心に説明した。

2. 学術講演会の今後の予定について

7月に予定している府医学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。

3. 第44回京都医学会について

9月30日(日)に開催される「第44回京都医学会」の内容を紹介し、積極的な参加と幅広い領域からの演題応募を呼びかけた。

△地区からの協議事項

1. ①フルミスト4価なる日本で未承認の経鼻インフルエンザ生ワクチン

②ベンゾジアゼピン薬投薬制限解除に必要な講習会について

正木庶務担当理事(中西)より、「①上記経鼻インフルエンザワクチンを自費にて使用し、副反応が出た場合等、府医からの補償は利用できるのか。不可の場合、府医として注意喚起が必要ではないか。」「②上記投薬制限解除に必要な講習会の具体的内容と単位数、府医としての講習会の開催予定」について質問が出された。

①について、松田府医理事は、個別のワクチンそれぞれにおける医学的妥当性に関しては各医療機関に委ねるものであり、厚労省の承認のないものを使用する場合、府医からの注意喚起は困難であると回答した。

②について、古家府医理事は、ベンゾジアゼピン薬投薬制限解除に必要な講習会について日医生涯教育講座のカリキュラムコード20「不眠」または69「不安」を満たす研修であって、プライマリケアの提供に必要な内容を含むものを2単位以上取得した場合に該当し、今後、詳しい通知が発出される予定であること、府医主・共催の学術講演会においても、単位取得可能な研修会を開催予定であると説明した。

2. 各地区医師会における災害時医療体制の取組みについて

古村庶務担当理事(福知山)より、他地区における防災訓練の実施や非常用発電機の備えの有無について質問が出された。

松田府医理事は、8月に「地区医師会救急災害医療対策連絡協議会」を開催予定であると報告。今回は各地区からの事前アンケート結果を持ち帰って協議した上で、8月の協議会において地区での取り組み等を紹介いただきたいと依頼した。